

カメラ、無線LAN併設自販機

SAPICと奥出雲町協定

防犯と情報通信環境向上へ

自動販売機の設置及び管理に関する



防犯カメラと公衆無線LANを併設した自動販売機設置に関する協定を締結した勝田康則奥出雲町長（左）とSAPICの後藤真之代表理事

機を社会インフラとして活用するため、奈良県桜井市など地方都市と組み、防犯カメラを併設した自販機の設置を進めてきた。人口減が進む中山間地域に貢献しようと同町と設置で合意し、ワイファイの機能を併設することにした。

飲料メーカーが自販機を、SAPICが自販機の

近くに防犯カメラと公衆無線LANを設ける。機器の運用・保守費用は自販機の売り上げで賄う。同町は場所を提供し、経費負担は発生しない。

同町三成の仁多庁舎であった調印式では、勝田康則町長とSAPICの後藤真之代表理事(54)が協定書にサインした。勝田町長は「町民や観光客の利便性が向上する」と歓迎し、後藤代表理事は「自販機を生かし奥出雲のまちづくりに貢献したい」と話した。

(引野道生)

奥出雲町と一般社団法人安全・安心まちづくりIC

通信環境の向上につなげる。

T推進機構(SAPIC、本部・東京都)が22日、町内の公共施設8カ所に防犯カメラと公衆無線LAN

SAPICが自治体と協定を結び、両機能を合わせた自販機を設けるのは初。

(ワイファイ)を併設した自動販売機の設置に関する協定を締結した。4～5月、同町の仁多、横田両庁舎や三成公園、横田公園などに計9台を置き、防犯と情報

同町は2015年度、国と県の事業を活用し、町内35カ所の観光・防災施設でワイファイのアクセスポイントを整備。公共施設への導入も目指していた。

一方、SAPICは自販